

<図書紹介>

『シンプルな12のワークが子ども同士の関係性を劇的に変える』

赤坂真二・菱田準子他著 ほんの森出版 2022年

立命館大学大学院教職研究科2年次生 近藤 颯

友人と喋っている時、「ちゃんと聞いてる？」と言われ気まずくなった経験は誰しもあるだろう。それでは話の聞き方というのは誰が教えてくれるのか。その答えの一つが学校教育である。しかし言うまでもないが「話の聞き方」という単元はどこにもあらず、学級活動などでの教師の力量に委ねられている。

さて、教育を所管する文部科学省は、子どもたちが安心して自己存在感や充実感を感じさせる場所を作り出す「居場所づくり」は教職員の役割であると明言している。そのなかで本書では「子どもたちにどのように関わるか」を1987年の創刊以来問うてきた『月刊学校教育相談』において、「このワークを実施したら子ども同士の関係性が劇的に変わった」と好評だったワークを12個厳選している。換言すれば、本書は「居場所づくり」の指南書といえるであろう。本稿では3つのワークを紹介する。

第1部「定番ワークで子ども同士の関係性を良好に！」-「うめのかさ」で上手に話を聞き合える子どもたちに」このワークでは「うなずく・目を見て・からだを向ける・さいごまで聞く」の頭文字「うめのかさ」を合言葉に「話の聞きかた」を育成することを狙いとしている。その際、子どもに“狙い”だけでなく、活動を行うメリットを伝えることが重要だとされる。例えば「上手に話を聞くことができれば、友達と良い関係を築くことができる」「今度、学級会で話し合い活動があるから、その時に使える」などが考えられる。

第2部「体を動かすワークで子ども同士の関係性を良好に！」-「心のキャッチボールでプラスのストロークを贈り合おう」では、「安心・安全の居場所づくり」を狙いとし、サークルになって、ぬいぐるみを投げ合うと言うワークが紹介されている。このワークは一見、名前を呼び、ぬいぐるみを投げ合うという単純なワークに見える。しかし、名前を呼ばれることで「自分はここにいていいんだ」と言うマズローの欲求段階説の「安全欲求」を満たすことができる。また、近年のキラキラネームを持つ子ど

もたちにとっては自分の名前と共に育つアイデンティティを育てるクラスを目指すことにもつながる。

第3部「心理技法を活用したワークで子ども同士の関係性を良好に！」-「アサーションで自分の気持ちを上手に伝える」では、「1つのボールを2人が取り合っているとき、あなたならどうやって解決する？」といった子どもにとって身近な事例をロールプレイで解決する活動を通して「トラブルの解決の仕方」「そもそもトラブルに合わない方法」を身につけることを狙いとしている。

このように本書では12のワークそれぞれに身につけさせたい“狙い”が明確になっている。その狙いは次の通りである。

第1部「定番ワークで子ども同士の関係性を良好に！」

- (1) 上手な話の聞き方 (2) 自己理解と親和性
- (3) 話し合いのルールを守って解決する方法 (4) 困った時の相談の仕方

第2部「体を動かすワークで子ども同士の関係性を良好に！」

- (5) 安心・安全な居場所づくり (6) 力を合わせる楽しさ (7) チーム力を発揮する方法 (8) コミュニケーション能力

第3部「心理技法を活用したワークで子ども同士の関係性を良好に！」

- (9) 自己・他者理解 (10) トラブルの解決方法
- (11) 正しい主張の仕方 (12) 怒りとの向き合い方

また、全てのワークのワークシートや指導案のファイルがダウンロードできるため、多忙を極める教員にとって、すぐに行える指南書と言える。

